

## ◎西国三十三霊所

神吉城主神吉重員（初代城主元盛の先祖）が山名宗全との合戦で討ち死にしたので、重員の子彦次郎治邦が城主になった時、神吉一族のため、中山の中腹に西国三十三所観世音を建立して冥福を祈願したが、天正六年神吉城が落城の後補修する者が無かったので逸散してしまった。昭和六年満州事変に殉死した兵士を思い、日清・日露の役に陣没した英霊を祭る記念碑を訪れる人が少なくなる事を思い、昔の仏跡を再建して国家の隆盛武運長久を祈り合わせて、死の英霊の碑前に参拝者が多からんことを願い、有志と相談して西国三十三霊所を再建し、昭和八年四月二十九日開眼供養した。現在は常楽寺において毎月十八日常楽寺女性部及び有志がお詣りして供養している。

再建の発起人は神吉 〃 の母 〃 女・ 〃 氏の妻 〃 女である。

賛同者は計十名である。男子の世話人は 〃 氏他十名であった。